

令和4年度事業報告

I 概要

1. 総括

【企画会議】

企画会議は、各専門委員会委員長で構成し、三役が参加し諮問している。委員会間の情報を共有するとともに意思疎通を図り、理事会及び専門委員会の運営が円滑に行われるように取り組んできた。

センターの現状を見ると、令和4年度末の会員数は238名となり、令和3年度末の会員数233名より5名増となった。目標数には届かなかったが、年度末の入会会員を増やすため、3月入会者の年会費については、理事会承認により免除できる仕組みを採用したこともあり、会員数は増加した。

契約金額については、コロナ禍ではあったが、前年度よりシルバー人材センター事業、労働者派遣事業ともに実績は増加した。しかし目標の1億5千万円には届かなかった。また、目標とした粗入会率、未就業会員解消、就業機会拡大の各項目についても達成することはできなかった。

就労相談日を毎月第4水曜日にふれあいサロンで実施してきた。これまで午後を実施してきたが、相談に行きやすいように、ふれあいサロンの来客が少ない午前中に変更した。年間を通して、会員の就業に関する苦情や悩み、トラブルなどの相談に応じるとともに、一般の高齢者の就労に関する相談や、入会についての問い合わせに対応してきた。相談件数は多くないが、定期的に就労相談日を設けて相談に応じる体制を作っていることに意義があるため、継続して実施していく。

毎年1月には企画会議が主体となり、一年の無事故を祈願し「仕事始め式」を開催している。令和5年も感染予防対策を講じながら開催した。例年出席率を高めることが課題となっているが、昨年に引き続き、新型コロナウイルスの感染拡大により参加を自粛した会員も多かったため、参加人数の減少はやむを得ないと思われる。安全祈願行事である餅つきを実施予定であったが、年末年始に新型コロナウイルス感染者が急増したため、中止せざるを得なかったことは残念であった。

ワークプラザは、主に手作り加工部つくしんぼなどの独自事業の活動拠点となり、活発に利用されている。会員が懇親を深め、交歓する集いの会場や伊佐さくら会活動の練習拠点としての位置づけも重要になりつつある。

【事業推進委員会】

令和4年度も、シルバー人材センター事業の効果的な事業推進と会員拡大を目的として取り組んで来たが、昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大による影響を大きく受けた一年であった。当委員会では主に、定時総会、行政機関との懇話会、市議会議員との懇話会を計画、実施した。

定時総会は、令和4年5月19日に、感染拡大防止のため出席人数の制限等、大幅に規模を縮小して開催した。委員会としては、定時総会の計画や運営の一助を担っ

ている。

行政機関との懇話会は、令和4年10月5日に十分な感染予防対策を講じた上で開催した。伊佐市長及び各課長18名、センター役職員29名が出席し、センターの概要説明と事業内容、会員の活動状況についての意見交換を行った。活発な意見交換を行うことができ、有意義な懇話会を開催することができたと思われる。市議会議員との懇話会は、令和4年11月4日にこちらも十分な感染予防対策を講じた上で開催した。伊佐市議会17名、センター役職員23名が出席し、事業内容と会員の活動状況等について説明を行い、意見交換を行った。両懇話会ともに、短時間ではあったものの、懇親会を開催したことで相互理解が深まった。また、本年10月に導入されるインボイス制度の情報を共有する良い機会になったと思われる。

苦情があった場合、迅速に対応することに留意しており、発注者に納得してもらう事後処理と、対象会員には注意喚起を促し、再発防止に努めた。

利用者アンケートについては、令和4年4月から令和5年3月までの間に、77件の回答があり、仕事の満足度については、満足が68件、普通が2件、不満が1件であった。不満という回答があったことは残念な結果であった。内容を検討の上、反省すべき点は反省し、今後同じような不満がないよう改善していく。利用回数は約77.9%が2回目以降であり、誠実な就業が次の発注へ繋がっていくことが回答結果からもうかがえた。

【組織管理委員会】

会員は地域班及び職域班に属し、センターの基本理念に基づき自主的、自立的な活動を実践している。令和4年度は令和3年度に引き続き、新型コロナウイルス感染予防対策に取り組みながら活動を行った。

会員拡大については、例年と同じく「一会員一入会運動」を展開した。今年度の入会説明会受講者は39名で昨年度より15%増加した。入会者数は31名と昨年度より5名増加し、入会説明会の改善などで一定の成果を上げることができた。年度末の会員数については昨年度より5名増加して238名となった。年度末会員数の増加対策として、3月度入会キャンペーンにより理事会の承認を得た入会者の入会時必要費用の免除を行ったことも寄与している。なお、退会者については、高齢化や家庭の事情によりやむなく退会せざるを得ない会員が、増えていることを認識しておく必要がある。

入会後には新入会員を対象とした「新入会員研修」を実施し、センターの基本理念、心構えの徹底を図るとともに、会員が守るべき就業時のルール、手順等について説明した。また、一般作業・技能群、独自事業群を対象に「会員研修」を行い、センターの基本的な事項を中心に説明し、苦情事例による問題点を共有したほか、お客様アンケートに記載された「お褒め事項」を紹介し、仕事の励みとする試みを行った。

役職員独自研修は8月30日（火）に実施し、参加対象者89名に対し59名が参加した。

地区別ボランティア活動については6月4日（土）に、ふれあいセンター周辺、まごし館周辺の2ヶ所に分かれて行い、大口地区36名、菱刈地区24名の参加があった。

また、全体ボランティア活動は9月3日（土）に牛尾小学校で行い、悪天候にもかかわらず会員57名の参加があった。校庭の樹木剪定や除草などを行い、秋の運動会を

控えた学校側からも大変喜ばれた。また、当日の状況は南日本新聞にも掲載され、シルバー人材センターのPRに一役買った。

【就業管理委員会】

新型コロナウイルス感染拡大の中、行政訪問活動などの啓発普及活動は縮小せざるを得なかった。街頭キャンペーンは参加人数を絞り込み、時期を秋にずらして実施した。広報車による街頭宣伝活動は毎月実施し、コミュニティなどに掲示している入会説明会・就労相談日関連ポスターの貼り替えを行った。特に10月の啓発月間においては、通常巡回していない羽月西や平出水などのコミュニティも訪問し、ポスターの掲示をお願いした。

一般市民と会員の交流を目的とした伊佐シルバー祭りは、コロナ感染防止に取り組みながら、3年ぶりに式典や展示販売を含めて開催し、多くの方々が参加され、盛況であった。

施設管理群の就業ローテーションに取り組み、施設によっては多くの就業会員の入れ替えが行われたが、大きな業務上の支障は発生しなかった。

「植木剪定スクーリング」は、一般市民の剪定に関する知識や技術の習得を通じて、シルバー人材センターへの入会勧誘を行い、新会員獲得に繋がった。併せて会員の技術向上、剪定班の戦力アップを図った。

その他、シルバーふれあいショップ、菱刈まごし館など市内の施設に入会説明会の日程、各種講習会案内のポスター掲示やリーフレットの設置を行い、地域に情報を発信した。普及啓発月間の10月には、全会員によるチラシ配布活動を実施した。

事業実績は、新型コロナウイルスの影響もあったが、昨年度より契約金額、就業延人員ともに増加した結果となった。また、『高齢者活用・現役世代雇用サポート事業』で配置されている就業開拓員並びに事業コーディネーターが、定期的に就業開拓等の活動を行い、センター事業の理解及び浸透を図った。

【福祉・家事サービス委員会】

福祉・家事サービス群としては、委員会を中心に一定の活動が行えた。しかし家事援助サービス班としての就業会員が少ないため、引き続き、会員の獲得が緊急の課題である。

福祉・家事援助サービスの主な受注は、高齢者家庭の家事援助である。市の包括支援センターや民生委員からの相談を機に就業に至るケースも多い。また長寿介護課の日常生活支援サービス事業や、地域振興課のふるさと納税返礼品(親孝行支援サービス)による受注もあり、ここから次の受注に繋ぐことで就業機会の拡大になるよう会員の協力が求められる。

「頭の体操教室」は、これまで受講者から大きな支持を受けており、令和4年度も引き続き、読み・書き・計算や、月1回の健康体操・輪投げ・スカットボールを行った。また今年度も、栄養士による「栄養教室(フレイル予防教室)」を開催し、受講生には好評であった。例年通りのレクリエーションとは別にグラウンドゴルフを実施したりと「勉強ばかりでなく皆で楽しい事を」という受講生の要望を取り入れた。昨年度同様、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、教室は毎回アルコール消毒を行

い、受講者・サポーターとも体温管理・手指消毒・マスクの着用を徹底して、密に充分配慮しての運営となった。受講者に毎回好評だった園児・児童とのふれあい交流は健康・安全面を考慮し、令和4年度も中止とした。

[頭の体操教室受講者実施状況]

実施校区	伊佐市委託事業			
	受講者	修了者	開設日	延受講者数
おおくち	39人	36人	40日	1,252人
ひしかり	20人	18人	40日	653人
やまの	10人	10人	40日	321人
ほんじょう	16人	9人	40日	358人
はつき	20人	20人	40日	711人

介護予防事業については、大口地区2回、菱刈地区2回の計4回開催した。検温・手指消毒・マスクの着用について理解いただき、密に配慮しながらの教室となった。

[介護予防事業実施状況]

実施日	実施場所	実施内容	参加状況	
			一般	会員
5月24日(火)	こころ館	認知症サポーター養成講座	8人	15人
8月26日(金)	まごし館	歌、体操、ポッチャ	7人	1人
11月18日(金)	まごし館	歌、体操、輪投げ	9人	8人
1月23日(月)	まごし館	歌、体操、スカットボール	8人	9人

子育て支援事業は、『放課後児童健全育成事業(児童クラブ)』を軸に、市や学校の協力のもと、十分な感染防止対策を講じながら充実した活動を実施することができた。

[放課後児童健全育成事業実施状況]

	開設日数	登録児童数	平均利用児童数	延利用児童数
山野児童クラブ	286日	13人	6.9人	1,950人
羽月児童クラブ	291日	16人	8.4人	2,444人

講習会については、料理講習会を2回と子育て支援講習会を2回、開催することができた。就業機会の拡大や会員のスキルアップにつながるよい結果が得られたことから、今後も継続して実施していく。

[講習会実施状況]

講習会	実施日	実施内容	参加状況	
			一般	会員
料理講習会	7月22日	ゴーヤを使った料理	6名	2名
	12月2日	簡単にできる栄養のある料理	5名	2名
子育て支援講習会	9月5日	子どもの見守り隊として	2名	10名
	11月25日	保健師による感染症予防の講話	1名	12名

普及啓発活動については、3年ぶりにふるさと祭りと春の市が開催され、委員によるチラシ配布を行った。事業所訪問についても計画通り実施した。福祉家事群によるボランティア活動も実施し、啓発活動及び地域貢献に努めた。

【独自事業管理委員会】

独自事業については、センターの特性を活かしながら、会員の自主的就業活動の場として安定した事業を展開してきた。

門松製作事業は、販売数量増加に伴い、売上金額は前年度を上回った。技術の研鑽や材料の確保及び作業段取りの改善に取り組んだ結果、前年度より就業時間、就業延人員数を抑えることで、配分金の増額につながった。

しめ縄事業は、昨年度の経験と技術の研鑽により販売数量・金額ともに大幅増となった。

シルバーふれあいショップは、相変わらずコロナ禍によるイベント等の自粛が多かったものの、お客様本位のショップを目標に活動した結果、ショップでの売上は回復傾向にある。

手作り加工部つくしんぼは、社会情勢に応じた販売戦略の見直しと強化を行い、お客様のニーズに合った商品の開発と安定的生産に取り組んだ。新たな販売先を開拓した結果、売り上げは上々であった。また、季節限定販売のあくまきや正月用餅の販売も好調だった。

ふれあいサロンは、前年度同様、利用者は少数の特定された人に限られてきたが、会員同士、また地域の方との憩いの場として心に栄養を貰える居心地の良い場所を提供することができた。

刃物研ぎ事業は、概ね順調な活動により、例年並みの取扱数量と売上額であった。上記以外の事業は、大きな活動は出来ていない状況である。

総括すると、前年度に引き続きコロナ禍での活動であったが、就業を通して地域社

会に貢献することを目標に、製造技術の向上や販売促進等に取り組んだ結果、全体として、概ね例年並みの取扱数量と売上額であった。

【安全委員会】

事業計画に基づき、安全委員会及び安全委員会对策員会議を中心に安全就業の推進に取り組んできた。

令和4年度は、新型コロナウイルス感染防止対策を十分に講じながら、予定していた講習会を実施することができた。

安全適正就業強化月間には、就業現地パトロールによる、安全・適正就業に関する指導・助言を行うとともに、安全就業に関係する講習会も積極的に開催し、無事故を目標に会員一丸となって取り組んできたが、傷害事故が7件、物損事故が8件発生した。

特に接触事故など車両関係の事故が多く、慣れや過信で行動したことが主な原因であり、慌てず落ち着いて行動することなどを常に意識しておく必要がある。

過去5年度間の事故発生件数

事故 年度	発生件数		
	傷害	物損	合計
30年度	9件	6件	15件
元年度	5件	10件	15件
2年度	8件	5件	13件
3年度	3件	4件	7件
4年度	7件	8件	15件

2. 理事会 令和4年度の理事会は、8回開催した。

理事会は、センター業務の運営上必要な事項について、総会に次ぐ議決機関であると同時に、最高の執行機関であるので、センターの発展のため、理事会を中心とした専門委員会活動の充実とセンター運営の統括を図るため、三役会議で各情報を収集し、各委員会へ反映させた。更に、センター事業の変革に対応するため、三役会議・企画会議での十分な協議により、理事会運営の強化も図った。

3. 組織活動

(1) 地域班

今年度も地域班において自主的な会合が開催され、「シルバー伊佐」の配布、会員への連絡事項等、地域班におけるシステムが定着していることは、世話人を中心とした会員の協力体制が充実してきた現れである。

(2) 職域班

会員への就業依頼を世話人・班長により行う、自主就業体制に基づく班運営も定着しているが、世話人・班長の努力によるものが大きい。安全面及び後継者育成のため、班長の定年制度を導入している。

また、今年度実施した講習会は、次のとおりである。

① 職群別会員研修

② 新入会員研修

4. 安全就業対策

会員の安全就業は、みんなの願いであり、大切な事項であるため、安全委員会及び対策員会議において、安全就業実施計画書を基に会員の無事故対策が講じられた。

- (1) 安全就業マニュアル・安全就業実施計画書に基づく安全就業の徹底
- (2) 安全就業の日朝礼式及び安全就業現場パトロールの実施
- (3) 交通安全キャンペーンによる交通安全及びセンターの普及啓発
- (4) 交通安全に関する講習会の実施
[車両安全運転講習会、交通安全教室]
- (5) 安全就業に関する講習会の実施
[刈払機・チェーンソー及びトリマ取扱講習会、救急講習会]

5. 普及啓発関係

就業管理委員会を中心に、役員・会員により次のような活動を行った。

- (1) 行政訪問活動並びに集客場へのパンフレット等の配置
- (2) 地域施設等への広報（入会説明会・講習会日程等）
- (3) 広報車による啓発活動

6. 福祉・家事援助及び育児支援サービス事業

福祉・家事サービス委員会を中心に、組織的活動としては感染予防対策に努めながら一定の活動が行えた。

しかし、家事援助サービスについては、就業会員が少ないことから、会員獲得が緊急の課題であるため、今後も啓発活動に力を入れていく。

育児支援事業については、市委託事業を中心に様々な事業に取り組んでいる。

- (1) シルバーハウジング(高齢者住宅等安心確保事業)の実施
- (2) 頭の体操教室(認知症予防事業)の実施
- (3) 児童クラブ(放課後児童健全育成事業)の実施
- (4) ほほえみ会定例活動の充実
- (5) 講習会の実施[料理講習会, 子育て支援講座]

7. 独自事業の展開

独自事業は、会員自らの創意工夫により、趣意を同じくする会員が実施する事業で、就業開拓の大きな位置づけとなるため、独自事業管理委員会を中心に現事業の拡充並びに新規独自事業の研究開拓に取り組んだ。

後継者育成としては、定期的な講習会を開催し、独自事業会員の拡充を図った。

また、独自事業会員の資質向上を図るための研修等も実施した。

- (1) 独自事業実施状況

① 門松製作事業	② しめ縄製作事業
③ 花卉・園芸栽培事業	④ 製炭事業(木炭・竹炭)
⑤ シルバーふれあいショップ	⑥ 刃物研ぎ事業
⑦ 手作り加工部つくしんぼ	⑧ ふれあいサロン
- (2) 講習会等実施状況

① わら細工講習会	② 刃物研ぎ講習会
-----------	-----------